

年間第二十主日

2014. 8. 17

マタイ15・21-28

呉 大一神父

今日の福音で、イエス様の態度は少し理解し難いです。なぜなら、イエス様はいつも女性たちに優しくしてくださっていたのに、今日の福音ではカナの女に少し酷い！と思われるほど冷たくなさるからです。どうして、イエス様はこの女に冷たくされたのでしょうか。

ひょっとしてイエス様はこの女の強い信仰をより大きく表現することで、イスラエルの民の弱い信仰を警告なさるためではなかったのだろうかと思われます。また、この女がイエス様に冷たくされたにもかかわらず、最後までイエス様に諦めずに懇願することができたのは、自分の娘に対する愛があるからでした。

即ち、両親は自分の子供のためなら、どんなことでもやり通せるからです。このように、神様も私たちのために、ご自分の愛する息子の命まで犠牲にすることができたのです。

また、今日の福音のもう一つの主題は、救いの普遍性です。

即ち、神様はイスラエルの民族だけではなく、この世のすべての人々をお救いになられるということです。従って、神様の救いの対象として、たったの一人も除外されることはありません。国家や民族、人種、宗教に関係なく、神様はすべての人々を愛されておられるし、救いたがっておられます。

ところで、私たちは生きていながら、あまりにも苦しいので、神様は本当に私を救ってくださるのだろうか、神様は本当に私のことを愛しておられるのだろうか、と疑っている場合があります。しかし、今日の第二朗読で「神の賜物と招きとは取り消されないものなのです」(ローマ11・29)とおっしゃったみ言葉のように、神様は決して私たちを見捨てられません。

韓国では、助祭叙階を受ける前に一ヶ月間、沈黙の黙想会を行います。私は一ヶ月間の黙想会の中、あまり祈れないし、神様って本当に私のことを愛しておられるのかについて疑ったときがありました。しかし、ある日、お昼ご飯を食べた後、散歩に出かけたところで、太陽の日差しが一層暖かいと感じました。ところが、その日差しは今日初めて差している日差しでもないし、昨日もあつ

て、一昨日もあったのです。でも昨日までは感じなかった暖かい日差しがその日において特別に暖かく感じられたのです。

このことを通して、私は、「神様はこのように、いつも私を愛して下さったのに、なぜ、私はいつも黒雲の中で過ごしているように思ったのか」と神様の愛を悟り、涙を汲みました。

このように、神様は私たち皆を愛されます。たとえ、今、私が大変苦しい瞬間に置かれているとしても、神様は私のため、より良い未来を準備しておられることは確かです。神様は私たちが理解出来ない方式で私たちを導いてくださるからです。従って、私たちは決して神様の愛の紐を放してはなりません。

一方、今、フランシスコ教皇様が韓国を訪問しておられます。今度、教皇様は第6回目のアジア青年大会と124位の列福式のごミサ、続いて明日は平和と和解のためのごミサを奉獻なさいます。

今日、私たちが住んでいるこの世は戦争と紛争が絶え間なく起こっていて、貧しさや病、そして、あらゆる差別によって、苦しみを受けている人々があまりにも多すぎます。このような時代に、神様の愛を伝えなければならない教会の役割がどの時より重要です。

フランシスコ教皇は『福音の喜び』の209項で「キリスト者は傷つけられやすい人々にもっと関心を持つべきである」とおっしゃいました。このお言葉のように、キリスト者は国家、民族、宗教を越えて、神様の愛を世に見せてやるべきです。教皇様が訪問なさった韓国だけではなく、アジアを初め、全世界に喜びと希望を伝えることができるきっかけになることを願います。